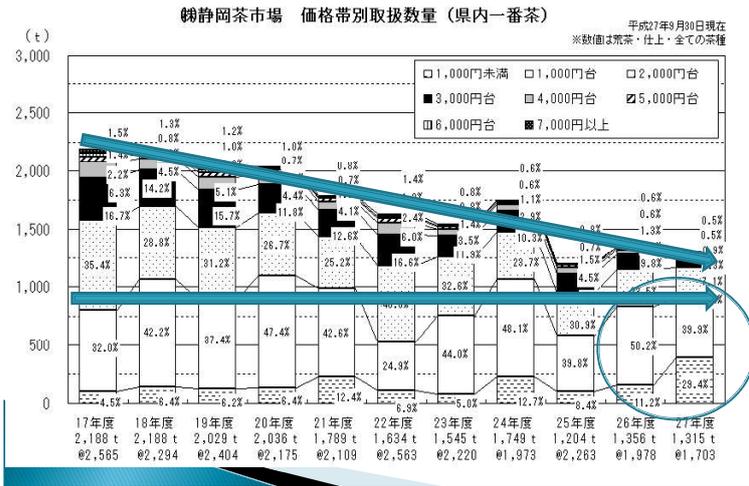
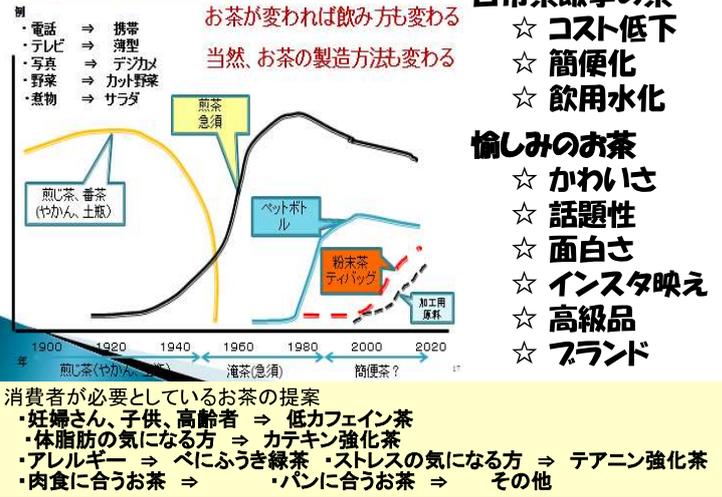


静岡茶市場の取扱量の推移 (静岡茶市場HPより引用)



緑茶消費の推移の概観



日常茶飯事の茶

- ☆ コスト低下
- ☆ 簡便化
- ☆ 飲用化

楽しみのお茶

- ☆ かわいさ
- ☆ 話題性
- ☆ 面白さ
- ☆ インスタ映え
- ☆ 高級品
- ☆ ブランド

しかし、基本的には

美味しくて簡便に飲める茶

ポスト急須も必要では



フレーバードティも人気

店舗前には三越の高級茶葉が売られているが、若い女性がひっきりなしに訪れ、可愛いとことで数種類のお茶を購入する



ティーバッグも増加 (遊び心、高級化路線が重要)



高級茶の飲用の場を広げよう ～ボトルティは面白い～



高〜いお茶もある

高価格茶の要因

- ・物語性があること
- ・こだわりのお茶であること
- ・数量が少ないこと
- ・品質的にも上級であること
- ・販売店の格



324,000円



21,600円/100g



10,800円/100g



10,800円/100g

高価格茶の戦略

- ・販売店の格づくり
- ・他の商品価格の上昇

茶の新需要の事例

表 茶の新需要の事例

区分	需要分野と応用例
茶として利用	水出し茶、各種発酵茶、新香味茶、ギャバロン茶、低カフェイン茶、濃縮茶、混合茶 など
飲用・形態を変えて利用	ドリンク茶、ティバッグ、インスタントティ、粉末茶、微粉末茶(食用、即席飲用、酒割用)、カード茶、錠剤茶、カプセル茶、茶ワイン、緑茶酒、スポーツ飲料、カテキン粉末など
食品・食用として利用	☆ 形態を変えてそのまま食用として利用 ☆ 食品素材として利用 「素材」「食品」「菓子類」「その他」健康補助食品
飲食物以外に利用	☆ 衣料用など ☆ 医療用など ☆ 化粧品、石鹸用など ☆ 消臭剤、脱臭剤など ☆ 日用品など ☆ 建材、家具、家電用品など ☆ 家畜、ペット用品 ☆ 植物活性用 ☆ その他

茶は飲用だけでなく、食品素材として、さらには機能性成分を活かした様々な飲食物以外にも利用され、新しいビジネスを創造している

特定需要者向け茶も増加

H.P.より引用

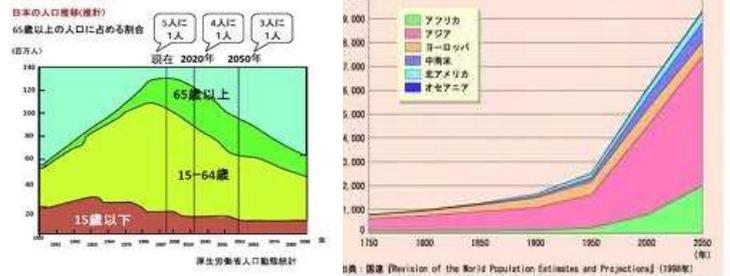
若い女性や高齢者は睡眠障害、妊娠時には乳児への影響を避けるため、茶の飲用を遠慮する人が多い



最近では、様々な低カフェイン茶が販売されるようになってきました

これからのお茶は？

要因 1 (人口の減少)



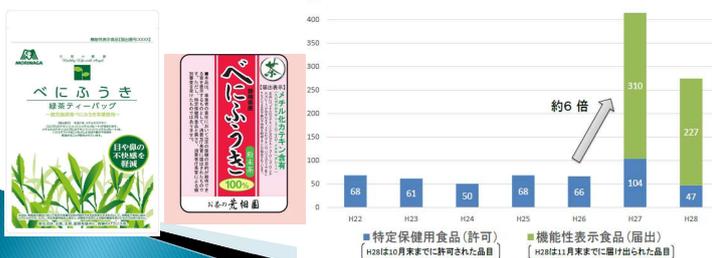
- ・人口の減少 ⇒ 消費者の自然減
- ・高齢者層の増加 ⇒ 淡白化、健康意識化、低カフェイン
- ・アフリカ、アジア人口の急増 ⇒ 消費量の増大

茶関係の機能性表示食品も増加

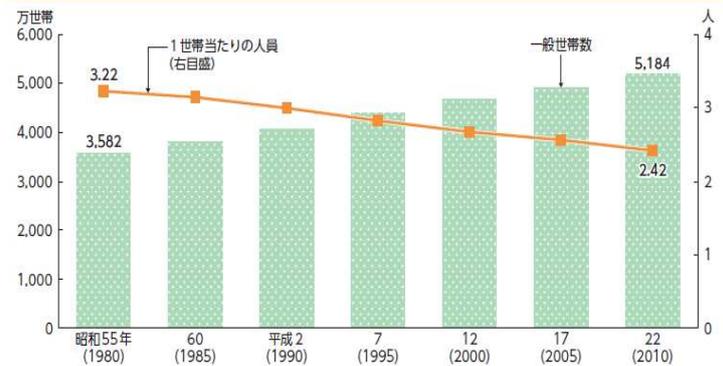
(各メーカーより引用)



新たに機能性の表示が可能とされた食品数

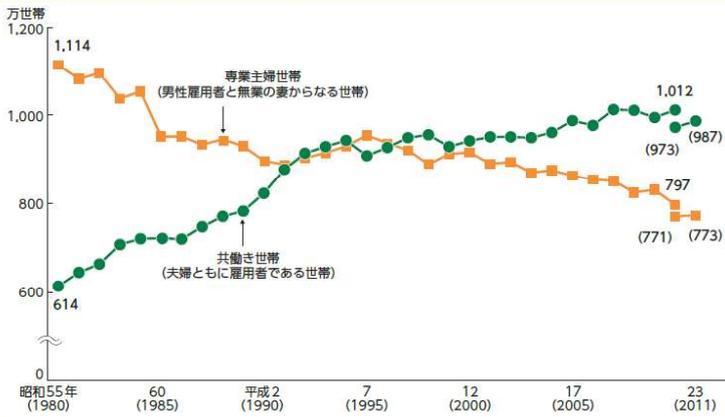


要因 2 (世帯も少人数化)



- ☆ 大型(大量)から小型化(少量)に
- ☆ 単身世帯も増加 個食化

要因 3 (共働きの増加)



- ☆ ゆっくりと食事を創る時間の減少
- ☆ 惣菜、外食文化 通販、ネットショップの増加

グリーンティーリズムは伸びる



茶業の今後の展開を考える上での重要要因

社会構造の変化

Keyword; グローバル化、高度情報通信社会、少子高齢化、サービス産業社会化、人口減少

来るべき社会は？

消費者の減少、ストレス社会、情報化社会

需要・供給構造の変化

Keyword; 自然健康志向、価値観・生活様式の多様化、女性の社会進出化、

多様化社会、小世帯化社会、惣菜社会、健康願望社会

環境保全の強化

keyword; 温暖化、低炭素社会化、自然循環機能重視型

省エネルギー、自然保護社会

憩いの場を 縁側カフェから



情報発信

SNS映える観光スポットを探そう

静岡県のおしゃれなインスタ映えスポット
静岡県は、お茶とみかんで有名な県です。「富士山」や「美保の松原」「蘆山反射炉」の世界遺産があり、多くの観光客が訪れる観光スポットになっています。今回はあらゆる静岡県のおしゃれなSNS映えスポットを全てまとめました。ココだけ見ておけばもうインスタ映えスポットを見逃すことはありません。

静岡県の観光スポット

富士山、 浜名湖、 蘆山反射炉



オスカルの旅する急須(キューチャン)



抹茶アート

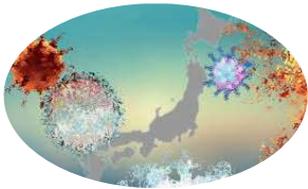


トピックス

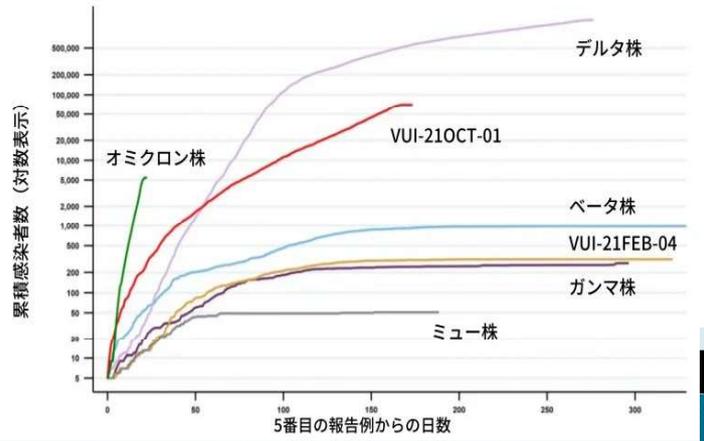
~COVID19情報 あれこれ~



Covid-19の継続的变化

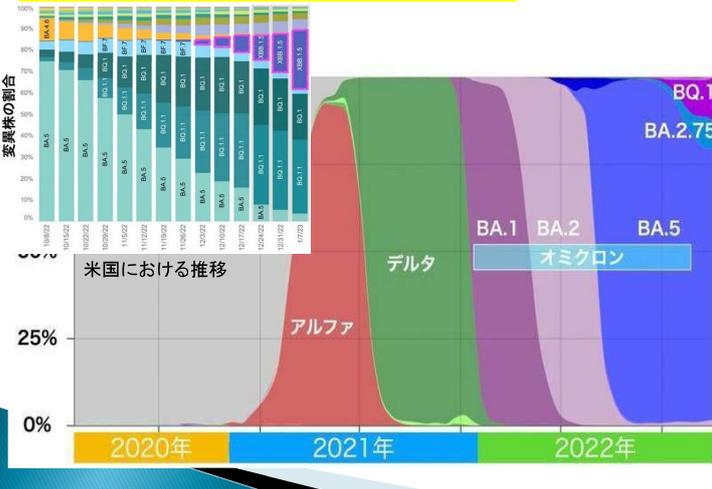


変異株別の感染者数の増加割合の特徴

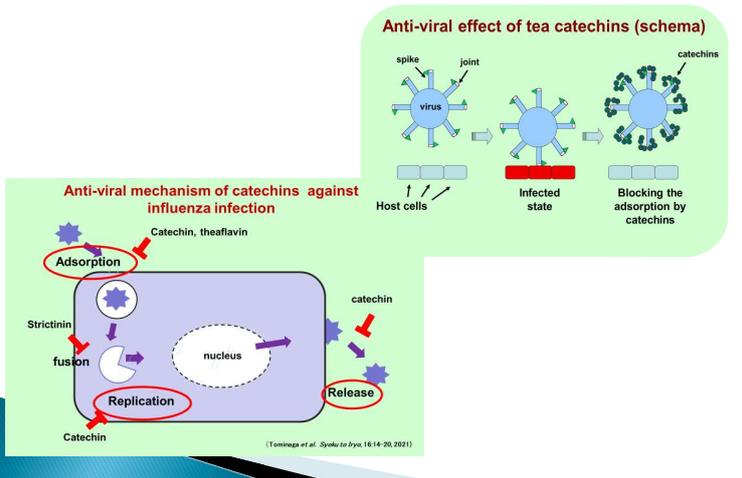


<https://www.soujinkai.or.jp/himawariNaiHifu/covid19-omicron-variant/>

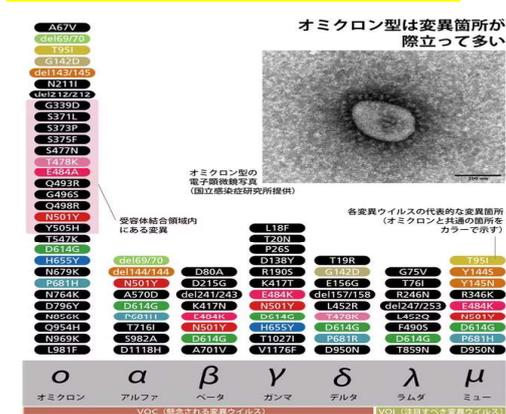
国内におけるCovid-19変異株の推移



茶カテキンによるインフルエンザウイルス感染阻害



Covid-19の代表的変異株の特性



免疫逃避に関与するとされる「E484A (K)」、ウイルスがヒトの細胞に侵入しやすくなる「N501Y」「H655Y」「P681H (R)」などこれまでの研究で要注意とされてきた変異が集積

オミクロン型では、ヒト細胞表面のタンパク質と直接結合する「受容体結合領域」という場所に大量の変異が集まっている。受容体結合領域の形状はウイルスが細胞へ侵入する際の成功率に直結する。しかも多くの抗体がここを標的としているため、免疫にも影響する。受容体結合領域に蓄積した大量の変異は、ヒトの体内でより増えやすく、そして集団全体で感染をより広げやすい。ウイルスの変異と選択が繰り返されてきたことを意味している。

茶カテキンによるインフルエンザウイルス感染阻害

Preventive effects of tea and tea catechins against influenza and acute upper respiratory tract infections: a systematic review and meta-analysis

Results from the meta-analysis
-6 randomized controlled trials (RCTs) and 4 prospective cohort studies (n = 3748)-

Total (gargling and consumption with tea or tea catechins) (risk ratio [RR] = 0.74, 95% confidence interval [CI] 0.64-0.87)

Study type:	risk ratio [RR]	confidence interval [CI]
prospective cohort study	0.67	0.50-0.91
RCT	0.79	0.65-0.94
Disease type:		
influenza	0.69	0.58-0.84
URT	0.78	0.62-0.98
Consumption or gargling:		
consumption	0.68	0.52-0.87
gargling	0.83	0.72-0.96

Gargling with green tea: a Japanese custom
Gargling with green tea has been recommended for the prophylaxis of flu in elementary schools in Japan.

<https://www.mdpi.com/article/DGXZQUC212PCOR21C21>

